

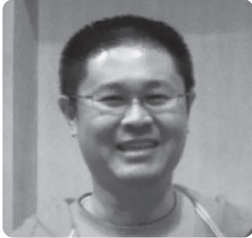
スタッフ紹介

Interview

～「ミヤちゃん」の巻～

「氣道のスタッフ」をもっと知りた〜い☆☆コーナーです☆☆

インタビュアー：N.F.



今回は
いろんなことができる
「ミヤちゃん」(ミヤケン)
こと宮本健志さんです。

どうぞゆつたり
&京都イントネーションで
お読み下さい。

「ちょっと、リラックスしましょか〜」と、ミヤちゃん。指と手のひらで背中などを軽くたたいたり触れたりするケアの方法を教えてくださいました。最初やっていたら、交代して私がミヤちゃんにさせていた後・・・インタビュー開始〜

● うーん・・・なんか、おちつきますね〜。

「タッピングタッチ」っていうんです。言葉にならないことが、お互いふれあうことでわかる。そんな気がしません？最初より距離感が近くなってると思うんですよね。(N:インストラクターの資格をお持ちだそうです！)。

● いろいろなことを学ばれているんですね〜。

何かを修得するっていうことを「学び」の一つとするならば、何かを真似て、というものと違った学び方もあるかな・・・と。そういう文脈で、舞台発表を控えたスタッフにフェルデンクライス・メソッドのレッスンをさせてもらったりもしてるんです。(N:こちらもプラクティショナー(指導者)資格をお持ち!とのこと)。

フェルデンクライス・メソッドのグループレッスンは、言語誘導だけでお手本は見せない。自分なりに、言葉を聞いた理解で自分で動く、自分の動きを通して色々な事を発見していくんです。

じゃあちょっと、右腕をあげてください。左腕をあげてください。右と左のあげ方で、何か違いはありましたか？

● おお、違いますね〜!

上げるスピードとかスムーズさとか。違いますよね。太極拳をしていても同じような腕の上げ方をしている可能性はありますよね。その違いをひとつの手がかりとして、動きを通して自分自身を学んでいく。自分自身のやり方に気づくと、太極拳の動き自体も変わっていく可能性がありますよね。

モーシェ・フェルデンクライス博士は「不可能を

可能に。可能な事をより楽に。楽に出来る事をより美しく」という表現をされたりしています。身体感覚を手がかりにした、無言語の学びとも言えるかな。

● なるほど〜。ところで氣道との出会いは?

13年位前かな。当時勤めていた治療院で難病の方々に担当してまして、その方々に治療院で推奨されているアプローチを行っても、効果がないように感じて・・・で、多くの治療家の方がやってるように、治療法探しの旅・・・最善の治療法を求めて・・・。今思えば、当時の僕の能力では結果を出せなかっただけなんだと思うんですけど。そんな頃、本の広告に載っていた長谷川先生は、僕が興味ある治療法をおおよそやってたんですね。そういう人に聞くのが手取り早いじゃないですか。で、横浜に。

横浜道場に初めて来て、ピンポンして、がらがら〜って入って・・・どうしていいかわかんない。そんなときに、笑顔が笑顔を連れてくるように、岡田きく枝さん・きくさん・・・当時の女性スタッフが降りて来たんですね。満面の笑みで。笑顔のほっぺは今でも思い出します。きくさんは、長谷川先生が関西で講座がある時には一緒に来てたりすることがあって、わりと身近にお話させていただいたんです。影響受けましたね〜。すごく度量の大きい方で。あ〜。会いたいですよね〜。「横浜におっちゃんは来ましたよ」って・・・おっちゃんって呼ばれてたんですよ(笑)・・・「これをご覧になったら連絡下さい」って書いていってください(笑)。

その後も年に数回、横浜詣でっていう感じで講座に参加しました。気分転換も兼ねて。わりと非日常的な空間じゃないですか、ここ。皆さんと・・・珠利さんとか松岡さんとかがスタッフになりたての頃で・・・いろいろお話しさせてもらったりとか、楽しかったですよね。長谷川先生も、関西から来たんだからと、ビールをご一緒させてもらったり、ピアノ聞かせてくださったり。楽しい一時でした。

● スタッフになった経緯は?

3.11の時、京都でも小さな地震があって。で、指を鳴らすより早い感じで(指をパッチン!)一瞬に、「やり残したことがあるな」って。先生との間でなんか、やり残したことがあるやもしれぬ、っていう感覚・・・。

それがおおもとですよ。あとはもう、後付けです。極端な話、先生が焼き芋屋さんでも何でも良かった。

こちらに来てからは何不自由なく、先生はじめ皆様にかわいがってもらっています。先生はいつも、スタッフは家族っておっしゃって下さいますし。

あと、氣道のスタッフは皆さん自分なりの専門分野を持ってるじゃないですか。武術や珈琲、フラメンコ、ヨガにアロマ、農業に食。一つそういったものを持っている人と一緒にいれるというのは、ラッキーですよ。自分の見方とは違うところから示唆を与えてもらえる。

関西スタッフの中野裕子さんは、長年出産とか育児とか妊婦さんに対しての指導、講座をされている方なので、出産育児に関するどんな質問にもすぐに答えてくれる。藤本太郎さんは理学療法士なので、長谷川先生とはまた違った視点で身心を捉えている。先日も電話とメールで捻挫について意見交換しましたね。裕子さんと太郎さん、皆さんに触れて欲しい人ではありません。面白いと思いますよ。



● 住み込み生活はいかがですか？

長谷川先生から「ここにあるものをすべて使っているよ」と言われて・・・CDとかDVDとかピアノとか・・・それは、もう～幸せです。学びの環境を与えてもらっている。

昨日、快療法の瓜生良介先生の DVD を見てたんですね。そこで瓜生先生が「細胞すべてが賛成する心地好き（快）を見つける」と言っていて。

ほーっ！なるほどー！って。

細胞を人間に置き換えて「人間すべてが賛成することってどんなこと～？」って。人種とかいろんな違いがある中で、身体感覚っていうのは糸口としてあり得るかも、って。心地よさって、と。

● ところで、好きな食べ物は？

お婆ちゃんの料理です。それと母親のお好み焼き。あとは、長谷川先生のお母さんのハンバーグです。僕、実は肉はあんまり・・・なんですけど、お母さんのハンバーグは好きなんですよ。千切りキャベツと一緒になら、ご飯2合いけますね。

● 好きな音楽や本などは？

マドレデウスっていうファドのバンド・・・あと、二胡のチェンミン。ファンクラブ入ってるんです((^_^))。僕の中の、ご褒美の時間としてチェンミンのコンサート。冨木杏奈さんというタンゴ歌手。それから奈良裕之さ

ん。奈良さんのセッションは何回も参加させてもらっているんですけど、おもしろいですよね。お薦めです。本は、精神科医の神田橋條治さんが書かれたものが好きですね。

● 今後については？

会員の皆様、ご縁ある方々にとって役立つような取り組みをしていきたいと思っています。

僕、その場対応なので、何かを思い描いて行動するのが下手なんです。後ろ振り返って見てみたら、こんなできましたよ～、みたいな。望む人間関係が作れていたりとか、好まないものを作り上げてしまっていたりとか。その時は自分なりに、よかれと思ってやっけてもね、気づかない。「くせ」というより「へき」？無意識な反応ですね。

無自覚なところを自覚していくって、動きに対しても心に対しても共通するところなのかもしれないですね。意識ができれば、変えられるやもしれぬ・・・可能性は出てくる。

今年の目標は、先生の個人指導を受けられる方々が操法室に入るまでに一回操法が終わっている。それくらいの身心の変化が起こる、そんな受付対応をしたっていうのはありますね。会社やお店、講演会などの受付で、とっても気持ちよく対応してくれる人、いるじゃないですか。迎え入れてくれている感を醸し出している。そういうのができれば、今年中にやりたいな、と。「うーん。最後は揃いかあー」

● 何にでもしっかり取り組まれるんですね。 なんだかもっといろいろお聞きしたい感じなんですけど・・・

いや～伝えるべきところは伝えましたから。言いたいこと言ってますからね。

じゃ、聴き足りない部分は第二部（夜の部）で（笑）。

● お願いしま～す！

前日をお願いしたにもかかわらず、口から出てくることばがちゃんと纏まっているんですね。いやいや、人として纏まっているという感じでしょうか。自分がどうありたいのかをちゃんと知っていて、そんな想いと行動と言葉がちゃんと一つになっている。場や時間、雰囲気感に感わされない。

「ぼくはもう～飄々とか～気軽なキャラなんですわね～」と言いつつ、「ネタを拾ってきて、思案に思案を重ねていく」というミヤちゃんの行動には、ぶれない理由や段取りがある。

あんま・マッサージ・指圧師の資格も！お持ちだという、ミヤちゃんの指導を早く受けた～と思っていた私に、5月から温熱指導を開始！される、という朗報が舞い込みました。楽しみです～。